

令和5年3月31日
自動車局整備課**自動車整備人材に係る課題解決策を取りまとめ、今後実行フェーズに！！**

～自動車整備の高度化に対応する人材確保の対策「中間とりまとめ」の公表～

自動車整備業においては、電動車や衝突被害軽減ブレーキ等の先進安全技術が普及しており、自動車の整備に求められる技術も高度化している一方で、自動車整備士になる若者が減少し、自動車整備業の有効求人倍率は4.55となるなど、自動車整備士の人材不足は深刻な課題となっています。

今般、これらの課題について、「自動車整備の高度化に対応する人材確保に係る検討WG」（座長：大原記念労働科学研究所 酒井一博 主管研究員）において対策を検討し、人材の募集、人材の定着、人材の育成の3つの観点から、人材確保策に係る対策等の中間とりまとめを行いました。

今後は、自動車整備分野の深刻な人材確保に係る課題の解決を図るため、自動車整備に携わる者全員がOne Teamとなって計画的・効果的に対策を推進してまいります。

【主な人材確保の対策（中間とりまとめ）】**➤ 人材の募集：**

- ①自動車整備士の認知度を早期段階から高めるため、若年層（小学生、中学生等）への自動車整備士のPR強化
- ②自動車整備士が職業として認識されて選択されるため、高校生等を対象とした整備工場における仕事体験

➤ 人材の定着：

- ③自動車整備業の職場環境改善を支援するため、自動車整備士の働きやすい職場ガイドラインを策定し、事業者の達成状況を評価
- ④短時間勤務、週休三日勤務などの自動車整備士の多様な働き方の提示について意識を喚起するため、国による経営者向けセミナーの開催

➤ 人材の育成：

- ⑤地域の整備事業者が合同で行う先進技術の研修に対する支援
- ⑥整備士養成施設におけるVR教材や最新車両（安全・環境技術搭載車両）等の導入に対する支援

【添付資料】

- ・自動車整備の高度化に対応する人材確保の対策【中間とりまとめ】概要
- ・自動車整備技術の高度化検討会 自動車整備の高度化に対応する人材確保に係る検討WG 委員名簿

※中間とりまとめは、以下の国土交通省ホームページにも掲載しています。

https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_tk9_000023.html**【問い合わせ先】**代表：03-5253-8111 直通：03-5253-8599
自動車局整備課 明石・田所（内線 42426、42412）

現状分析

検討の背景

- 1. 自動車の車両に関する現状及び課題**
 - 自動車の保有台数は約8千万台あり、ハイブリット車や電気自動車等の電動車や、衝突被害軽減ブレーキ等の先進安全技術が普及する一方で、自動車の平均使用年数は長期化
 - 自動車整備士は、最新車両に搭載される電子制御装置から使用年数の長い車両まで、幅広い知識・技能が求められている
- 2. 自動車整備業に関する現状及び課題**
 - 自動車整備業の有効求人倍率は4.55（令和3年）であり、全国的に上昇傾向
- 3. 自動車整備人材に関する現状及び課題**
 - 自動車整備士資格の新規受験者の申込数は減少傾向
 - 自動車整備業に従事していない自動車整備士資格保有者は約54.8万人（推計）

検討内容

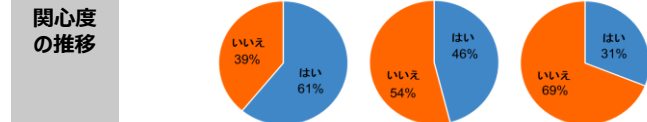
1. ハローワークにおける求人・求職情報の分析

フルタイムの賃金 「求人企業が示す月給の平均」は、「求職者が求める月収の平均」より、約2.6万円低い

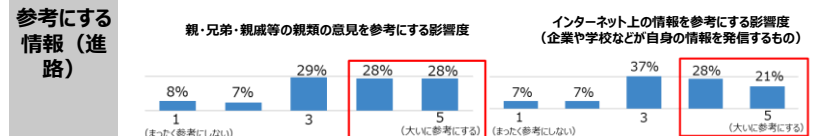
2. 自動車整備の学科に通う高校生を対象にしたアンケートの実施及び分析

認識のきっかけ 自動車整備業を最初に認識したきっかけは、「家業」や「近所の自動車整備工場を車検で訪問」などの身近なところが多い

「自動車整備士になりたい」と考えている高校生の回答割合は、高校1年生から高校3年生に進級するにしたがって減少



卒業後の進路決定に関して、「親・兄弟・親類等の意見」を参考とする割合が高く、「企業や学校が自ら発信するインターネット上の情報」を参考とする傾向が高い



就職への関心事項

- 自動車整備の就職説明会に参加した高校生は、「仕事内容」、「職場環境」に対する関心が高く、続いて「スキルアップ」、「休日・休暇の取得」、「残業時間」の関心が高い
- 自動車整備以外の就職説明会に参加した結果、他業種の方が「自分が成長できる環境がある」、「働きやすい職場環境」との印象を持ち、手当や給与についても他業種の方が好印象と考えた高校生も一定数いた

対応策の検討

別添1

主な対策内容（人材の募集・人材の定着・人材の育成）

各対策について業界全体で連携を図り、計画的・効果的に取組を推進

I 自動車整備に係る人材の募集策

1 自動車整備士の職業としての魅力を正しく伝える取組

① 自動車整備士の認知度を高める取組

- 若年層（未就学児、小学生、中学生等）に対する自動車整備士の職業の認知度を高める情報の発信（自動車整備学校・自動車整備事業者）
- 保護者、学校関係者を含めた学校説明会の充実化（自動車整備学校）
- 自動車整備業への関心を高めるコンテンツの開発・活用（自動車整備士人材確保・育成推進協議会）

② 自動車整備士を職業として認識されて選択される取組

- 自動車整備士の魅力や重要性を周知するため、高校生等を対象として、整備工場における仕事体験の実施（自動車整備学校・自動車整備事業者）
- 就職説明会の充実化（自動車整備学校）
- 中高年生等に対する出前授業、自動車整備体験会等の充実化（自動車整備学校・自動車整備事業者）

2 自動車整備業の職場環境の改善の取組

- 国が策定するガイドラインを活用するなど、女性を含むすべての従業員にとって働きやすい職場環境の整備（自動車整備事業者）
- 社内教育、キャリアパスの整備（自動車整備事業者）
- 自動車整備事業者の働きやすい職場環境に関する情報発信（自動車整備事業者）

3 学びに関する金銭的負担軽減の取組

- 各種奨学金活用等の充実化（自動車整備学校・自動車整備事業者）

※ 国は、予算措置を含め、これら取組が円滑に遂行されるよう必要な支援を行う

自動車整備業の実態の継続的把握

自動車整備業に従事する人材に係るデータについて、継続的に把握するための仕組み作りを検討

今後について

- 次年度以降、自動車整備に関わる全ての関係者がそれぞれの立場で精力的に活動を行い、取りまとめた各取組に限定せず、各自動車整備学校・各自動車整備事業者・各団体等の創意工夫により、取組を推進
- 各団体等が実施する取組を継続的にフォローアップし、必要に応じて改善策を検討
- 整備士の給与をアップさせるためには、整備事業の収益を向上させることが必要であり、生産性の向上やユーザーの安全性向上にもつながる定期点検実施率のさらなる向上策を検討
- 今後は、次世代モビリティ（空飛ぶクルマ、ドローン、電動キックボード、電動車椅子等）など、自動車整備士の知識や技能を活かせる可能性がある新たな分野について検討

自動車整備技術の高度化検討会
自動車整備の高度化に対応する人材確保に係る検討WG 委員名簿

(順不同・敬称略、()は前任者)

- (座長) 酒井 一博 公益財団法人大原記念労働科学研究所 主管研究員
- 宇佐川 邦子 株式会社リクルート ジョブズリサーチセンター センター長
- 鳥山 美波 ダイハツ東京販売株式会社 (一級自動車整備士)
- 野村 耕司 一般社団法人日本自動車工業会 サプライチェーン委員会 サービス部会 委員
- 高橋 徹 一般社団法人日本自動車整備振興会連合会 教育・技術部 部長
- 塩田 一浩 一般社団法人全国軽自動車協会連合会 常務理事
- 荒居 正明 一般社団法人日本自動車販売協会連合会 参事
- 平井 一史 全国自動車大学校・整備専門学校協会 副会長
- 長谷川 達也 全国自動車短期大学協会 専門委員
- 安部 幹也 全国自動車教育研究会 理事
- 市川 清 日本自動車車体整備協同組合連合会 理事
- 森 大樹夫 日本自動車輸入組合 二輪車委員会 委員
(寺島 友義 日本自動車輸入組合 アフターセールス委員会 委員)

(事務局) 国土交通省自動車局整備課